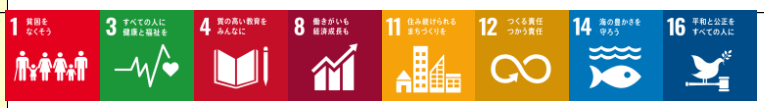
新居浜市SDGs推進プラットフォーム会員のSDGsに関する取組状況

団体番号 （入会日順）	52	入会日	令和5年06月01日
団体名称	学校法人松山大学		
代表者	理事長　新井　英夫		
業種	教育		
所在地	〒790-0826 愛媛県松山市文京町4番地2		
TEL	089-925-7111		
SDGsについて 現在取り組んでいること	■愛南マダイ応援隊　－社会貢献－ 水産業で有名な南宇和郡愛南町は、水産王国・愛媛県の最南端に位置し、全国で流通する養殖真鯛のうち5～6尾に1尾は愛南町産というトップシェアを占めています。本学は愛南町と連携協定を締結し、「愛南の真鯛」の商品開発やプロモーションとともに愛南町の魅力についてYouTubeや各種SNS等で発信し、地域ブランドの価値を高める活動に取り組んでいます。 ■シトラスリボンプロジェクト－社会貢献－ 新型コロナウイルス感染者やエッセンシャルワーカーに向けられる差別解消を願って立ち上げた活動「シトラスリボンプロジェクト」は、差別をしない「安心の目印」として「地域」「家庭」「職場（学校）」を象徴する3つの輪をかたどったシトラスのカラーリボンをつけ、感染しても「ただいま」「おかえり」と言い合える世の中を願って始まった取り組みです。コロナ禍における不安や孤独に眼を向け、誰もが暮らしやすい地域社会へ変わっていくことを願って活動しています。この活動は、本学法学部の甲斐朋香准教授が、2020年4月に愛媛大学の前田眞教授、企業経営者ら6名と団体を作り推し進めています。 ■学内を優しく灯すペットボトルツリー　－教育－ 使用済みペットボトルを再利用してリサイクルツリーを作成。クリスマスのイルミネーションとして、LED電球で飾られたツリーが、優しい光で学内を彩ります。清涼飲料の業界では「プラスチック資源循環宣言」として、2030年までにペットボトルの100％有効利用を目指しています。学生たちによるこのようなリユースの取り組みを通して、少しでも資源の有効利用について考えるきっかけなることを願って活動しています。 ■学術研究と夜回り活動から貧困問題の改善に取り組む　－研究－ 厚生労働省の「ホームレスの実態に関する全国調査」によると、全国のホームレスの数は2021年時点で3, 824人に上る。その中でも大阪市西成区釜ヶ崎はホームレスの数が特に集中する地域として知られている。人文学部社会学科の大倉祐二教授は、大学院時代からこの釜ヶ崎などでの実態調査に基づき、ホームレス問題の社会的構造の課題について長年研究に取り組んできた。また学術研究だけでなく、松山市のホームレスを支援する市民団体にも所属し、学生や社会人と共に実際にホームレスの人への声がけや食料・医療・支援情報等の提供を行う「夜回り活動」にも積極的に参加することで、身近な活動からも、貧困問題の改善に向けて日々取り組んでいる。 ■医療のプロフェッショナル、医療従事者の働き方を研究　－研究－ 医師や看護師のような医療プロフェッショナルが働く環境では、古くから労働時間や賃金のバランスが上手く保たれてこなかった。また、近年では新型コロナウイルスの流行によって、医療現場はますますひっ迫し、医療の労働環境の問題はさらに深刻化してきている。労働経済学を専門とする西村健先生は「医療関係者の働き方の歴史とその変遷」をテーマに、医療従事者の労働環境や賃金の決まり方などについて、データに基づく統計分析と歴史分析の両面から研究を行なってきた。そして西村先生は、ご自身の研究から、医療プロフェッショナルを効果的に育て、医療をサステナブルに提供していくためにはどのような対策が必要かについて提言していきたいと考えている。また現在は、近年の「働き方改革」の進展によって医療現場がどのように変わってきたかについて、インタビューやアンケート調査に基づいた手法で明らかにすることを新たな研究課題として取り組まれている。 ■MAKE YOU HAPPY with us（患者さんの幸せを実現する）－研究－ 薬学部 医薬情報解析学研究室では、てんかんなどの病気や抗がん剤の副作用などに苦しむ患者さんのために、その予防や治療薬の研究に日々取り組んでいます。研究室のメンバーである武智研志先生は、近年注目されている「ドラッグリポジショニング」というアプローチから予防・治療薬の検討を行なっています。具体的には、臨床現場や基礎実験から蓄積されたビッグデータを活用し、すでに世に出ている医薬品から、別の疾患に効果のあるものを見つけ出そうとしています。武智先生はこれまでに、ヘルペスに対して処方される薬が、抗てんかん薬として有効である可能性や、血圧を下げる薬が、抗がん剤の副作用に対して有効である可能性などを見出しており、実用化にむけて学生さんたちと一緒に日々研究を続けています。新規に作る薬と比べて、すでに市販されている薬であれば、新たな疾患への薬としての実用化も早く、またより安価に手に入れられるため、病気や薬の副作用などで苦しんでいる患者さんに、より早く安く必要な薬を経済的に届けられることが期待できます。		
目指しているゴール （今後目指したいゴール）			
SDGsについて 今後取り組みたいこと	1923年、日本で三番目の私立高等商業学校として誕生した本学は、校訓として「真実」、「実用」及び「忠実」の三つの「実」からなる「三実」を掲げ、地域の未来をよりよい方向へと導くべく教育、研究、社会貢献などの様々な取組を実践してきました。しかしながら、グローバル化が進む今日の社会において、多くの課題が、地域や分野を超え、複雑化を増してきています。そこでSDGsという地球規模で均衡のとれた公正な社会（Equitable World）が実現されるよう、教職員及び学生諸氏の叡智を結集して教育研究に取り組み、地域のみならず、地球の未来に大きく貢献する大学となるよう尽力して参ります。新居浜市と松山大学は令和3年9月1日に包括連携協定を締結し、連携事項の中で、SGDs推進に関することを掲げ連携協力することを掲げています。新居浜市SDGs推進プラットフォームでは、加入団体と連携することで、経済、社会、環境の各方面にわたる複数の地域課題を共有し、解決に向けた取組を行うことで本学の地域貢献活動が一層充実すると考えております。		